

「伝統を守り、異なる世代の つながりを強めて助け合う町」

よしはら
File71 吉原町

国道8号線から吉原釜屋町を結ぶ市道と、小松市から福島町を結ぶ県道が交わるT字路「福島交差点」の先に位置する吉原町。現在の町には、110世帯315人が暮らしています。西川と熊田川が流れており、明治41年水害を避けるために、砂丘地である西川の西側に集団移転した歴史がありま



町の一大行事である60年以上続く盆踊り大会の様子。200人ほど参加し、お盆に帰省した方を含めて盛大に賑わいます。

す。そのため、西川を境に集落と田園地帯が明確に分かれており、水害に強いまちづくりが徹底されています。集落を歩くと、延喜式内社えんぎしきないしゃの熊田神社が目に残ります。かつて別の場所に同名の神社がありましたが、約400年前に起こった手取川の洪水により熊田村の集落が流失し、明治9年、現在地に八幡宮と熊田村の熊田神社を合祀し、熊田神社と改称した歴史があります。「この町は条里制の町並みでこじんまりとしていて、昔からつながりが強く、みんなで助け合う町です」と町内会長の田中さんは話します。毎年8月14日には町民や帰省した方が200人程集まり、熊田神社で盆踊り大会を開催します。また、老人会の「いきいきサロン」と月1回の公民館開放（りくつな〜会）などの行事で町民の交流する機会を設けています。今年から、若い世代の方々を中



吉原町内会長
たなか ゆきお
田中 幸夫さん

吉原町 - Yoshihara -



町のほぼ中心を貫く形で能美市と川北町を結ぶ加賀海浜産業道路の造成が進んでいます。周辺の産業団地造成も進む予定で、田畑が広がる西川東側の景色が今後大きく変わっていくことが予想されます。

心に構成される4部門（福祉・防災・安全・総務）の委員会を設けました。その結果、これまで目が届かなかった若い視点で、役員会に意見が出るようになりました。町の組織において、縦のつながりと横のつながりを強める吉原町。多くの世代の力が合わさり、より住みよい町になると感じました。

※古代律令制における神祇官が延長5年(927年)に作成した官社帳に掲載された神社。

「豊かな土地で地域一体となって 文化と資源を守る町」

わけ
File70 和気町

加賀産業開発道路を小松方面へ南下すると、道路の左手に「和気の岩」と呼ばれる赤茶けた岩山が見えてきます。和気町の集落はその東側にあり、現在212世帯492人が暮らしています。ゴルフ場や工業団地、振興住宅地の和光台に囲まれた立地であるにもかかわらず、町の中に一歩入



虚空蔵山から見た和気町。標高130メートルあまりの虚空蔵山は遊歩道が整備されており、里山の景観を楽しみながら散策できます。

ると、木々に囲まれたのどかな風景が広がります。「この町のシンボルは虚空蔵山と鍋谷川」と話すのは町会長の折坂さん。その言葉通り、集落は鍋谷川に沿うように民家が並び、東側には集落を見守るように虚空蔵山があります。虚空蔵山には中世の山城跡があり、一向一揆の拠点にもなったと伝えられています。現在も石垣などの遺構が残っており、その歴史を垣間見ることが出来ます。和気町がある国造地区は、庭先にユズの木が植えられるなど昔からユズに馴染みがある地域です。和気町の国造ゆず団地には、今年34年ぶりに苗木が植えられました。「近年は国造ゆずを使った美容製品ができたたり特設ウェブサイトが公開されたりと、裾野が広がっていて、地域としてもうれしい」と折坂さんは微笑みます。町では、春秋の祭りをはじめ、獅子舞や左義長、虫送りなど昔からの行事が続いています。「文化



和気町会長
おりさか しげる
折坂 茂さん

和気町 - Wake -



加賀産業開発道路や国道8号小松バイパスにつながる主要地方道寺島小松線が2016年に開通しました。「交通の便が良くなりました。何より町中の交通量が少なくなったため、安心して過ごせる」と話す折坂さん。

祭や餅つきも盛り上がりますね。若い人からお年寄りまで活発ですよ」と折坂さん。行事には和気町出身で和光台に住む若い世代の人たちが加わるときもあり、にぎやかに過ごそうです。この地域で紡いできた文化と資源を大切に思う心がある限り、環境が変わっても和気町らしさは失われなれないと思いました。